

## 令和7年度第2回「知事と一緒に生き生きトーク」発言要旨

- 1 テーマ：若手経営者の力で岡山の産業を元気に～意欲的な研究開発を目指して～
- 2 日 時：令和7年7月16日（水）14:40～16:00
- 3 場 所：岡山県工業技術センター 1階技術交流室（岡山市北区芳賀 5301）
- 4 参加者：工業技術センターと共同研究等に取り組んできた若手経営者など6名

### 5 知事挨拶

- ・これまでの工業技術センターとの共同研究等の取組や具体的な活用方法、課題などについて意見交換を行い、今後の県政を進める上での参考にしたい。自由闊達な発言をお願いする。

### 6 発言内容等

#### 【自己・会社紹介、工業技術センターとの共同研究等】

- ・鋳造を専門、刀鍛冶の技法を応用し自動車や農業機械部品を製造。工業技術センター（以下「センター」）とは10年以上の付き合い。サポイン事業（成長型中小企業等研究開発支援事業（現：Go-Tech 事業））で、鍛造と熱処理を組み合わせた技術で特許取得・実用化に至った。ステンレスの耐食性実験では10日間、昼夜休日を問わず実験機械を稼働し、対応いただいた。中小企業にとって、センターの設備や職員の豊富な知見は重要でありがたい。
- ・紙・塗料・接着剤・樹脂・ゴムなどに使われるつなぎ材として利用されるろう石粉末を製造。牡蠣殻を活用したSDGs関連の事業にも取り組んでいる。センターとの共同研究で、滑り止めチョークを開発し、販売に至った。開発初期には性能評価で苦戦したが、職員の提案で別の装置を応用した結果、性能差を明確に測定できるようになった。牡蠣殻を使ったネイル製品を県内ネイリストと共同開発し、来週発売予定。
- ・一般向け競技用部品の開発・販売や、自動車メーカー向けの試作・研究開発を手掛けている。OVECに参加してインホイールモーター開発、国の補助事業も活用している。レース活動もしており、富士スピードウェイの「ジャパンカップ」で3位に入賞した。センターとは、創業者の代から材料相談などで関わっている。専門業者を紹介してもらい解決・商品化に繋がったこともあった。最近は、ハードだけでなくモーター解析ソフト「JMAG」の活用など、ソフト面でもサポートを受けている。
- ・自動車部品（ヘッドレスト、エンジンマウント等）を開発・製造。女性比率40%、外国人材比率25%、障がい者雇用率4.1%と多様な人材が活躍。Go-Tech 事業に採択され、リサイクル性向上や環境負荷低減を目指した自動車シート部品の開発に取り組んでおり、センター職員が研究開発に熱心に協力してくれている。
- ・創業221年。製造に雄町米を全量使用する酒蔵で、日本唯一。途絶えていた最古の醸

造方法「菩提酏」を40年前に復活させる等、特色ある醸造を継承している。センターとは設立当初からの付き合いで、酒造組合の巡回指導や乳酸菌採取の支援を長年受けている。12～13年前に発酵が進まなくなった際には、乳酸菌の良い採取場所を特定していただいた。「雄町三部作」プロジェクトで岡山県立大学と連携し、酵母の採取・培養を行い、試験醸造を進めている。

- ・旋盤やマシニングセンタを用いた精密機械部品加工がメインで、プラント向けの機械部品作りにシフトし、電気から機械へ業種変更した。硬い材料を用いるレーザクラッディング技術を開発。コバルト合金の基礎データ取得について、センターと共同研究を進めている。産官学連携の研究会「先進加工技術懇話会」にも参加している。

### 【共同研究の課題、必要な取組・支援など】

- ・自社技術の秘匿性を保ちつつ、工業技術センターを通じて他企業との連携を促進してほしい。特に、聞きづらい内容や話にくい部分の仲介役を担っていただきたい。
- ・県外でしかできない試験があり、旅費等が負担となった。県内で試験ができる環境整備が必要である。大学等で対応できることもあるため、センターがコーディネートしてくれると研究が進むと思う。
- ・どこに相談すれば良いか分からない場合があるため、相談窓口を一本化し、適切な機関へ振り分けてもらえる仕組みを整えてほしい。
- ・県内に研究開発を行う企業があることを学生に紹介することで、県内就職につながると思う。
- ・研究開発という言葉自体に敷居が高いと感じる中小企業が多いと感じている。
- ・研究開発系の補助金は負担が大きいため、少額な補助金があれば、研究開発へのハードルが下がると思う。

## 7 知事まとめ

みなさんの積極的な取り組みと存在感に感銘を受けた。工業技術センターを有効活用いただき、発展していく企業を増やしてまいりたい。